諸禮一統集

起居 進退
諸取渡

一二三 上

目録

巻第一　起居進退之節　諸禮式之事
巻第二　右同断
巻第三　右同断
巻第四　元服婚礼懐胎産屋喰初髪置帯解女猴
巻第五　飲食給仕之事

安松藏書

巻第六　盃之次第之事
巻第七　折形并諸通之事
巻第八　書札之事
巻第九　右同断
巻第十　諸式礼之事

和禮儀統要約集　自序

夫礼ハ人倫日用の大綱須臾も離べからず次可離非礼
君臣上下父子兄弟も非礼バ不定冠婚葬祭軍
も非礼バ不行豈礼者ハ禽獣の分なりとて漢家
抑のくハ礼儀三百威儀三千乃聖作あり和国に
風ハ太刀折紙より賓始て森羅万像の法式定まり
拵太刀折紙小三ケの大事ハ万代不易に甚捐あり
天下泰平國家安全祈奉る祝儀是より大ひ
成ハなく是より労ハなし深秘して家より
外へ出さず既く世人紀事あやまざれバ以人説せ

失ひ法をみだして國風衰り国に居て国乃
大儀をしらざれバ出家を剃さゞるは異国人なれバなり
故に不得已して是に紙し第一太刀ハ森を
天の逆鉾として折紙ハ□なり其一滴磤馭盧
嶋となる乃表相也第二太刀ハ天也陽也神也折紙ハ地也
陰也紙也太刀折紙納まるは天神地祇合体の
表相也第三一つの剱宝をもつて四海国土の戦を治め
給ふ表相也又太刀ニ別伝乃形相あり切先ハ国家
として東方柄頭ハ宗用として西方柄ハ三角と
して南方刃ハ水波のかたどりをして北方たり

極津波を堺て西ハ南海道東ハ山陽山陰五畿北陸東
海東山道に至り彼我猪ごく南海の中に表して
情怜の因を偏くるすなるべし故に太刀の額
異国ハ勝るすも此地氣によつてなりかく有難
御國の表相豈猥りに言を継べからんや春年を祈
まゐる乃大儀是に極ぬ故に尤もあきてさるべからず況哉
神前に採幣帛を掛ニ聖像に襟着衆前に仏前に護摩
諸戒法修してその行法の礼儀を尽して謹祈
ときハ是を然これを用ゆ太刀折紙の執行何ぞ
疎かにすべけんや猿去此根実ハ未だ似して

法式をみだし経絡よりの事物術なきに従事也
右の奥儀を会得して戦栗なきものへ今幸に
本太刀小太刀とも継ぎに遺風あり是なくは何をかとん
もとるしとするにこそ次第を漸々に叢軽にあらせん
そのかりし世紀実との人小童乃遊戯のごとくに本
太刀何も執行べき人にあらずといへども天理不然
の趣よして人気は師示に誘らず識に天下令下式
作べし見べし左一張を弓八万理の根源孤探の
に限べらば稗儒佛小学志乃学ぶ文に妙道を
捷径をまで捷径より我家の一般ハ百家に於るなと

小笥大鼻也室ハ大追物笠掛草鹿等の事日用の節を旨
といへども騎射練習のことなくして居なから武を示さ遠
近ハ進退容君の節先弟子ことなりなり今人と賞礼
あるに性乃ものつきのごとく礼法を厳しく人倫の作法を
入し次第礼ようこと隠れ用すれ習ふさせ不忘なる服看の
躾式会はいふまでもなく服ハ人の容子知せあるべし法
あり紛よ其不善を知らずとも識者の見るよう規矩
準縄をもって方圓平直をたゞす是ハ別何の
益かあらん学て礼節をわんすの也益男体ハ陽よして
指をなんべ進みて閉女体ハ陰よして指を後へ退て閉

夫天地ハ自然の礼容也又其体ハ公の思惟節にかなふ所ハ公も
恥しかるべき代ハ萬事に随ふごとくなすまじきは有り或人ハ何ぶ孫
不具の人ハ發剥ても妄に益する事なからんか又それハ孫
乃ゆるさ有のごとし丈ある所に而もしるやさし寡鰥
きよらかに不具足しても狼不知人ハ山出しの荒木
のごとく饗ある所に頭ぶるへして晴ケ寄座敷へは
つひに出じ今の世の人ハ其能諸道宴居の席にはまじへ
茶道数寄の才を専として公界日用の作法を不
学びのつき足れ難きも不知ハ何ぞや甚不満
として当是也やめよといふもあしく只性を知べき也

捨る事なかれと日頃弱所怨れ行ふ所ある所を引て和礼
礼法の書多し部分ハ其梓に設くといへども更に其道
誰しらして世人是を信用せざれバ郡に幼より多疾
まで療術に志し精力を尽すといへども人の國の事の
柏小我朝乃大儀を去りて非を不欽ハ天神地祇乃
御罰遁るゝ事なからん我恐れ昼夜を不限病の暇
ある毎に自筆を執て諸家の取捨して其要
を酌て是れ條目を撰で和礼儀統要約集と號せ
凡我國の法式旅行時は君臣父子夫婦兄弟朋友
の行儀也全く体寛に濶て[illegible]に化して一家[illegible]言行をなすべし

新羅甲斐守源義光十九代
小笠原修理大夫貞輔
源貞輔三男依于病身蟄居
同　三省軒　統最
源統最玄孫要約集之撰者
同　友儀斎　長F

和礼儀統要約集　巻之一

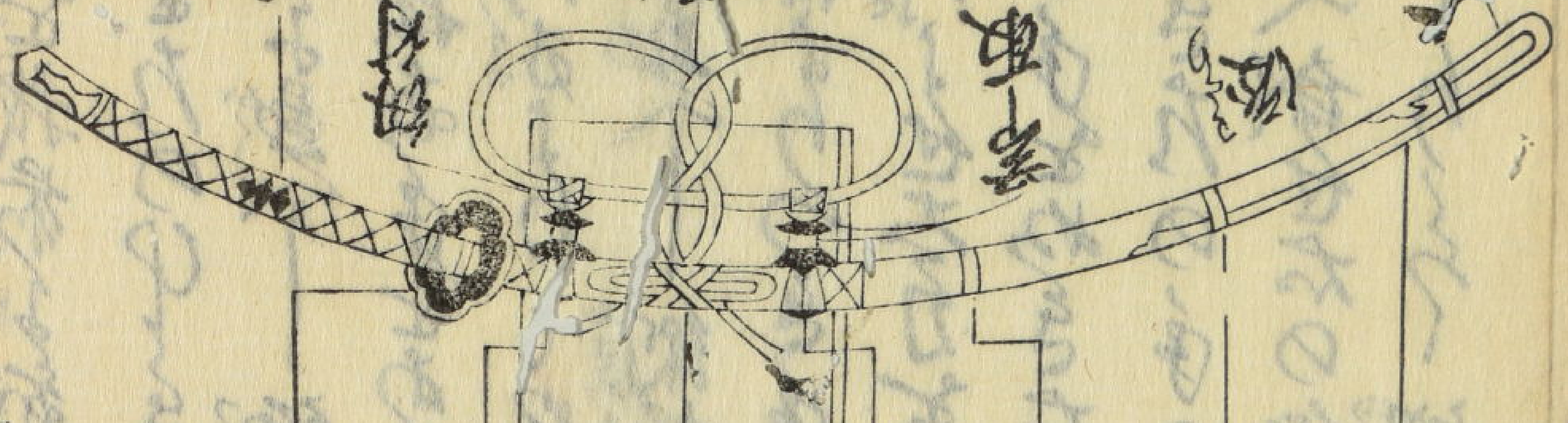
起居進退之部

一 真の太刀の事 太刀を右の手に持 折紙を右の袂に挿と
中指とおくゆびのさきへはさみて持行 頼で申と云上手より
の使者の人へ奏者へ一揖して退り あれにて使者
の間へ持参なり 使者の前に座して太刀折紙を右
の膝に折紙の角をまつすぐに太刀を置 附帯の
をさきへなして膝にをく 紙太刀にそろふ 扱扇を
右の手にてぬきて左の手に持 左の膝につき
膝をゆりよせ手をつきて口上 何某殿より今度の
御役儀御首尾よく 目出度存候 御祝儀の印まで
御太刀一腰 馬代 進上仕候 と申述 使者中へ 御太刀

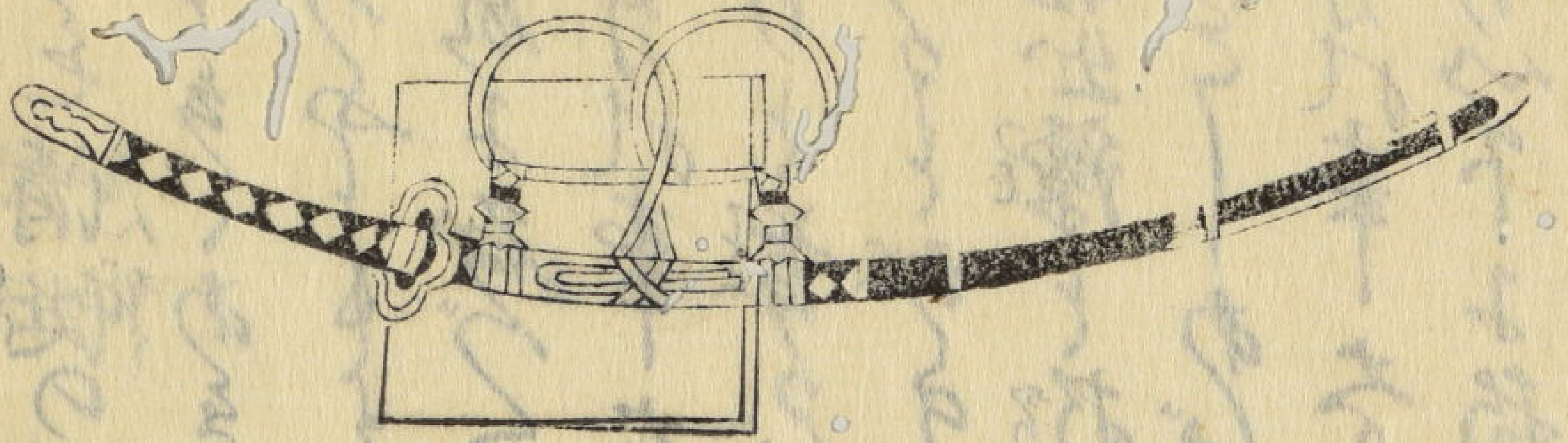
折紙と閉づりし紐にて奏者の名を向ふ奏者も
又使者の名を呼ひ座上一礼ありて扨太刀の鐔に
内へ左の手をさへ右にしあげ右手に持折紙を左にもち
我前に出し奏者も寄る時太刀折紙をもちさしあげ
披露するあり奏者左にて折紙を左右にて太刀を持より
身にし折紙を右のひとさしゆびとうけたるゆびにて持
そへ左の手をつき右の膝より右のひざをすゝみ
たゝしあげて二三寸ばかり右の膝をのべ
折紙に左の手をそへ座上に給帋の小尻をかゝへて立
べし 披露のうち太刀と折紙とを腰にめとどより
さしあげ請人の御前ちかく持行べし是上客の前
行り先左の膝よりつき右の膝を立ておこして

太刀をめうへ折紙を我前に置き縁へ出すへし
出し太刀の甲金を左のひとさしゆびの際より太刀
いろして折紙の上に置くべし鐔と折紙との間一寸
ほどあくるより披露の手をあをふけ引柄子にあせ
手をつき三返して何ずよりは上をやて又一返し
両手を膝の上へ引両立べし納様のうち両手を前に重
ありくと寄左の膝よりつき手をふせ受ます太刀折
紙に手をうけ前へ引よせ太刀を右にて撮置左の方へ
斜めにもちてのち左の手をぬき右の手の上より折紙
を押へ又右の手をぬき左の手の上より太刀を取あげ
折紙と一同にもつべし合せ右の膝を引左の足より立
あり太刀に手かゝりくて納べし

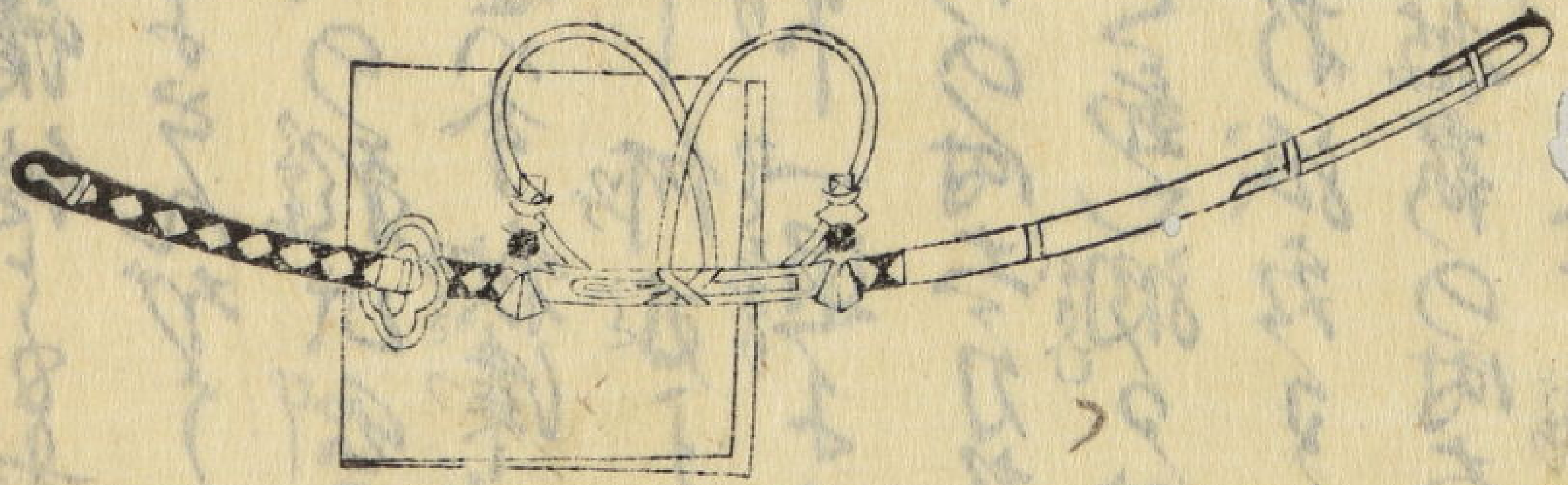
真の太刀



行の太刀



草の太刀



いづれも蜻蜓の口どりや　蜻蛉とも蜻蛉ハ青色に
蜻蜓やとんぼうと云　俗にとんぼうと云ものや
又かげろふともむぎわら　此国の形此虫のすがたに
似たる故に名づくる也　蜻蜓国をバ今　秋津洲と云故也

一　行の太刀の事　太刀さきのごとし　何方よりと問ひ
何某より参り付同事なり　以下一通りに不及　以上
又ハ右の如く云なし　披露の時太刀折紙扇の
出ると折紙を包みとて折紙をひとしく置也　同じく付ハ引よせ
太刀をおろし　あげ在所へ太刀折紙共々置けば持出也

一　草の太刀の事　太刀さきのごとし　披露の時太刀折紙を
乳の座り以下に持出　箱を折紙より一寸内に入置へし
胴付ハ引よせおろし　上座に不及　在所へ共々持出也

一　門外貴人の太刀の事　是ハ上使或ハ貴人門外まで
出迎付出　和見跡の上に手をつき　貴人付　此
近習の家来へ太刀折紙を渡し　立帰を亭主
下へ入と請取ニ難しと載付視しと我六又載き
我家来へ渡し　先の近習に向ひ御膳をかたしれ下
は様なとやせば　近習共もはじめて　ハ彼所に座りや
さるしぬすや亭主様おそくりをる付出人入くと
三度宮の亭主も三度に取をさけ浄礼をへし

一　門内使者の太刀の事　是ハ我門内まて使者に行
お付使者の側へ近習参り　何方よりと問ふ　何某
よりと　又使者の名を問ひ　左りさき参り挨拶を
申上げ又あへぎおとなしあるべきよし　近習付使者をば

辞退して出ず奏者より再三いふ是非御出あり候へとて
扨主人式台へ出入りて太刀折紙を常のごとく御上段ま
礼を請くべし主人の御目通り如在や披露のうす
太刀折紙いつものごとく盃錫にさゝざり何の何某様へ今と
言人へ申ん御使者と目づかひし何のと言人へ申ん右の
手を左へよせ何がし丈と右の手を畳へつけていふ
拍子にて使者の方へ居なほり御口上をと申せ是出相の
披露の仕形也広間までの披露ハ一返むつかし扨
奏者へ向ひ使者遠く口上申述太刀折紙○参じ候と
主人の方へ向きなほりて申し扨御目通りて伝て折紙取りよの
時御入にて披露しと時宜をなすべし主人太儀のよし御入
と候へ使者承て奏者辞しおくりをすべし

一 貴人へ直太刀の事 主人太刀折紙御持参の時奏者
ひざをすゝみ手をつき口上を承り披露太刀もちて御前へ
時切先へ寄左の手にて引あげ右の手にて受左
の手にて太刀の上を切先まで撫おろし拍子にて
右の膝につかひてみ折紙を取そへ左の手にて折紙の
角をさへしきて御縁の時御膝おくり下座手をつく
主人中程まで入給ひと御手を三度拍子にて御出
奏者も手をつきよはせし謝礼すべし

一 貴人へ使者仕太刀折紙持参の事 主人の御使仕太刀折紙持参り
るゝ時代を懐中すべし 扨式台へ御入の時奏者にひざを
手をつけ御口上の後太刀折紙持参ひと詫伺候の時
披露太刀折紙を持出奏者ひざを向ひ披露太刀ましきて

銀馬代ハ奏者の前に折紙のそばに置へし　奏者ハ右にて
馬代ハ右へなをし　懐中して左の手にて取りを
まで折て右にところに紙引しめ太刀折紙を
差出さりとて上ゆるやかに時宜して持出なり
一 貴人へ介添の事　主人へ式台の板の間にて太刀折紙
持て参りて宜に据へおき　其まゝ持参り主人の左
のかたへ参り折紙の頭を主人の方へむけてさしあげて右の
方へまはりより太刀を取りおさし　左上へなり
一 使者介添の事　是ハ貴人も少人かど同道にて参り
奏者に披露し　何事もそれと使者の方をあん合にて
の祝儀物は太刀折紙持参やいちいち伺へば
相済やいとまをこふて奏者の前を向ひ太刀折紙を下に置

奏者いつものごとく納めて扨かへりに出て時宜へ申捌
まで以下とたがひにちがひより何か奏者そのとき挨拶ま
はりうく双方ともに済礼すべし
一 使者介添の事　是ハ使者に参りゆりの小介添をする也
奏者と使者相見し　以上終て後介添の者太刀折
紙を使者へ渡しその右の方をかまひて使者乃ため
ところ折紙を使者の左の手へ字頭を向て渡し
太刀を左の手へ取て柄に掛りて渡すべし
一 主客一座の太刀の事　客人奏者へ太刀折紙披露
頼むとき返座にて座敷へ出り向に奏者太刀折紙を
請人の前へ披露して主人上座ならば主人へ向ひ客人
の名をいひ披露りと下座へ向ひ申すなりといふべし

いづれも上座よりいひとしむかあり

一使者自然の太刀参る事亭主人の太刀もつりのごとく先ッ御しん談役者中より私儀か様の申述有べく存ませんと其度の儀に付御家老中と熟しても存候に申上候亭主人幸便ければ序ながら申し上げ候有りしかばの小太刀持上申候此を申時着座して御ためと申合式台へ案内さがり下に座して御返し請取亭主人の太刀をいつものごとく右の脇に置使者の太刀を亭主人の太刀より先のかたに置べし此折紙を左の膝の前に置亭主人の太刀を右にて取折紙をおもて取亭主人の太刀紙使者の太刀の上に組亭主人の折紙を使者の折紙の上に組合せ左に持太刀組て皆を右に取て申出すと

一礼して立べし此時かくのごとく取合べし

一別儀の太刀折紙の事　左は此太刀一腰此馬一疋の外式は黄金拾両金襴緞子かくのごとく書付く又は木太刀かるの時のやうに書折紙を懐中し中座に左の足を左へ披使者に書折紙ひらきて太刀を右の脇に置折紙を右にて取出し目録に左もかしらをもて取り目へ左右の太刀の刃を入ひらき左脇を見合てから家臣紙安手にて持中にて御覧に請取前のごとくひらき左の手にひらきてそのごとくして左の手にて此左の手をつき膝入て左ゆ懐中する時太刀を右の手にて取右の膝の内をかさしあげて手に右の手の下へ持出し御披露のしかたのごとく

持出し先太刀を御前に置折紙の折り目へ左右の大指
を入ひらき少し後ずさりて座して太刀の上にならべ
置し納る時ハ折紙をたゝみ左手に持太刀を右手に常のごとく
持立し折に先太刀折紙を渡し(し)て披露を御申上候
請取人ハ我の右のかたにはさみて一礼 披露の人
右まで頭をさを左右まて手紙のまがりを持て御
手へ一礼 まで 披露なるべし ものゝ請取人へ渡
此方のかたより左手を上右を下にして手紙の中
ほどを持上下へ手を引こすり払子に手をかけまいし
請取し御取人へ一礼して手紙を左へたゝみつき
ましまして御取し沖目に継くの披露し十九
熨斗目を此目にかけ其次につきを此目にかけその

後に左の方は目にかけ御目見の披露は御申あり
太刀は軍陣にて後を見せぬ為なり
披露くりもなし向へ三度引うけしまへし披露
のつる方の小指に手紙のまをうけ左の手へうちかけ
其の所を両手に握りまける の目をつきあげ左右ち
右まで三度せんへつき二度前へ引出し手紙を本の
ごとくして引へたり

一 白洲の太刀は事ま人門前へ出題の時披露人太刀折紙
を持参して白洲に控へ御取次して披露の参着披
の間へおり何方より御目何方まで申すへきかを
かどに見まで下にとも付参着も白洲へおり臣の
上に手をつく披露は上を申し太刀折紙中まで

御意へし積ゝ之右の扇子かひてみ左の手を受の
上にうきて下にとりそへて御扱ますと申し奏者又[illegible]
ましけと右府御[illegible]右の膝をうしろへ少しさまに押
にて手を出し此へ[illegible]て立帰り

一 鳥井太刀式事 折紙の頭を鐔のきハへして二つよ
おり太刀をはさみ左の手持扇を右の手持神[illegible]遣
御手ニ附太刀のそりを下へなし扇の折目を向ふへし
て鐔の内へ[illegible]すそへて目貫りかさしあげ御手をやり[illegible]
香井の[illegible]し扱[illegible]し積ゝ[illegible]持上神[illegible]へ折[illegible]
扇を左の扇子[illegible]太刀折紙を[illegible]まて[illegible]きおり[illegible]を
[illegible]まて[illegible]へ引出し字[illegible]の[illegible]へ[illegible]扱[illegible]
[illegible]太刀の下へ[illegible]まて押へ[illegible]扇の鐔の内へ[illegible]

のかより頭を太刀[illegible]せかけて[illegible]へし扇[illegible]ざる
時ハ[illegible]指ゝ[illegible]扇をねさせて[illegible]御[illegible]扱扇を[illegible]して返遣[illegible]

一 行幸の太刀式事 警固の式ニ太刀を左の扱子常
[illegible]扱子[illegible]て御車[illegible]太刀をかり
[illegible]して柄を左へなして[illegible]さや[illegible]て[illegible]
[illegible]し御車通りて又[illegible]のことし

一 御父子太刀式事 御[illegible]子太刀折紙ニ[illegible]同座
まて割[illegible]積[illegible]付し[illegible]主人の御父子[illegible]
[illegible]まて披露ヤ[illegible]時ハ切先を[illegible]遣へむけやさ[illegible]
[illegible]へし[illegible]遣左右[illegible]時ハ[illegible]をもつて御父の
[illegible]近く披露[illegible]へし上[illegible]中[illegible]下[illegible]にて[illegible]
下[illegible]の[illegible]は[illegible]遣の下[illegible]へ刀さげて披露[illegible]

此文の方を先に成時ハ右の手の縁へ左の手を入早く太刀
のかねにあてゝくるりと取戴して柄を我右へむけ白紙
へ置して柄頭へ右の手をそへ折紙の上にて太刀を放
して置べし
一 面目の太刀の事 太刀数多の時先にて披露して
あるに縁の太刀下に置れハ勾欄下座にて披露あるべし
縁の太刀上に置れハ先にて披露ありて太刀の切先の上
のさきに披露あるべし 先の太刀と後の太刀と同座なれハ
先の太刀ハ切先の方へ向ふにすべて披露あるべし 然るに
それぞれに披露の太刀面目[illegible]与力[illegible]
披露一度に太刀折紙の時も此心得あるべし
一 八部の太刀の事 折紙を左に太刀を右に[illegible]して

へと云字つけて其披露あるなり
一 縫殿の太刀の事 折紙を左に太刀を右に置して
叶と云字つけて其披露あるなり
一 [illegible]太刀の事 其の太刀の様に右の手にて
まで左の手に[illegible]左の手まで右の手
の上より折紙を押へ右の手を上へぬきて太刀を我に
折紙と共に並へ[illegible]太刀を[illegible]納るなり
一 持参の太刀の事 主人の御前へ出座にて持参を
時の如し 太刀を[illegible]折紙を[illegible]
前へ[illegible]
に太刀の柄を御前の右へ向けて[illegible]
中門にて又一返して[illegible]御礼申又一返して[illegible]

衣の膝をさす紙にさすへし 紙袱のうちへ入てあまる
ほとまて太刀の所を包紙を入まて押へ両方へ付け
太刀をあつるやうに持さすへし 二重目に出る人にも付け
刃を上一重に出し太刀を縁より折て組あまり
一大太刀の事 是は遠州流の太刀より左の方を
あけ紙かけて柄頭にさし付衣のうちにてすみを持て
の縁へかくしもろけとし出し 後を柄頭へ左の方を
かけ衣の方にて中程を右の縁へかけて向ふ
にあまり紙一通もとし扱ひ礼にて持さすへし
抜差も仕立の例にてなく持様なる間にかけ
やすりまた同前に横に並び多くの事も
一鞘の太刀の事 金物より末よりさす太刀又はけかしし

中太刀を鞘に並て抜差の時はなく組合並にては
折紙を柄頭まて押へるけ又は右の方にて押へ左て
かけ中の方の鍔の鞘の太刀は柄頭を下にして左
の方にてよし鐺あたりも見えす 柄を右へむき鍔かけて
一風呂敷の太刀の事 書院広間あたりにても折りかへし左の
抜差は上葉は折紙の折目より一寸ほど内に鐺を並
同様に中を並下は折紙の合せ目より一寸ほど内
に鐺を並へし 折りかへしからぬ段あり
一遠の広蓋の事 小袖の下まへを上へかへし二つにあり
あまりを折手の右へ寄す 広ぶたへ繻子を太刀のむかふ
折手の方へ寄り 袖下のうへ繻子を出し 角にかけて並
袖を折かけ広ぶたの西縁を折り右の縁に並はし

逆に前へ出し其まゝにて先へつき右の手にてひろ
ぶたの先を右左の手にて前のふちを取懐に
右へまはし袖を折かへし太刀をかけ取広ぶたを
其まゝにて先へ少しつき出し御前にて請取の太刀の
刃を我方へ向け横手にて取かへし袖を其まゝにて折つけ
広ぶたを先へつき前のごとく取まはし又まはりて
横手右の膝へ引つけ一礼して又前へ出し
おき立まはり慇懃に広ぶたの請取御渡へ向け延して渡し
入申まゝにいたして請取まはりさがりて御渡し奉
取上にて請取る手にて捧披露の時は下に置き
先へつき出し袖を我前へかけ太刀を右手にて取出し
広ぶたを先へ少し引よせて衿のまゝ袖を上へ折付

持出し広ぶたを渡す時は蓋長さ弐尺五寸横壱尺七寸
三分ふちの高さ弐寸五分かけこみは三分あるべしこれ
をもつて三寸八分但しこのほか長さ小さき寸の方も
あるべし三寸のうちの内をくりたり内へ折かへしく
弐寸八分也四方の角丸くすべし内も内のりうるし
一　草の広蓋は事小袖の上まへを上にたゝみ二つに
たゝみ広ぶたへ入袖下の方へ纏をかけ袖口の方へ
切先を出し太刀を横手取を我方へむけ袖を折かけ
広ぶたの両手をおき右の膝にて蓋口上を述べて前へ
出し其まゝにて先へつき出して広ぶたの先のふち
を右左の手にて前のふちを取逆にまはし袖をかけ
太刀をかけとりすべし少しつき出し御前へ請取

太刀の取やうハ向ふ様子見合候て禮をなし候て指
付廣ふたをそへつき前のことく逆手にもち右の縁
入てかたつと一禮して持立へし 拵紐の時ハ下にをき
紐をときて太刀をぬき紐を廣蓋をかたしせんへさし

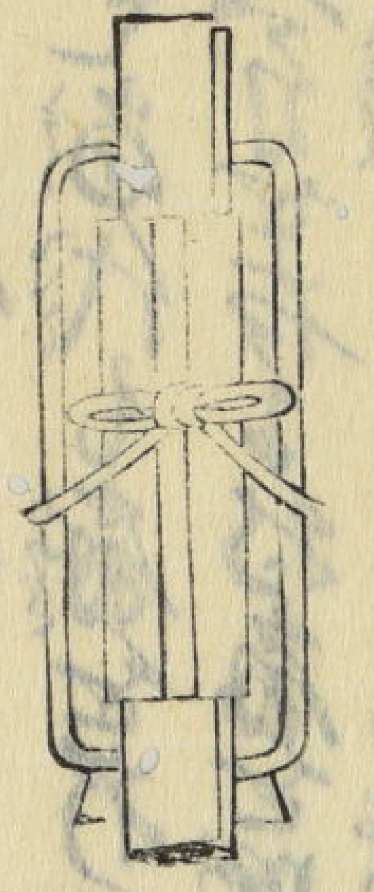
一 お家へ太刀の事 入院殿なとの作法ハ一ツ盃の上ニ居ルとハ太刀
を扇を用る上中下共常の折紙ニ扇子を添て持代にかけ

一 お家へ刀の事 柄を紙右へして右の手をあやつけ
かりさの下を擱り左の手をあわせて掛へり角のあ
たりを持出し添へもしお家ともし右の手をそ
右左の手を添へかけ一礼して立へし 拵紐の手
右の手に持ちあがり右の膝によりて左の手の甲
に上ニ柄頭を付けて拵紐をかけるなり

一 太刀に扇子の事 是ハ昔ハ太刀に添てつかひける
例也 当代も扇を折紙に包ミ添てつかふ事あり
先太刀を右にもち扇を竪にもちそへ右の膝にあてし左の手を
つき懐中紙をいたゞきしきて太刀扇を右の膝に置載
さの扇ハかならず口上述て後扇を左にもち太刀を右にもち扇を
取りを置のさきをもちて上を取りて斜に置太刀を
八文字に合置を置 奉書をも太刀を先扇を竪にもちそへ左
の手をつきてまて持直し拵紐の方ちらとく置

一 太刀に鞘袋の事 左の手にて鞘袋を持右にて太刀を
持座して 太刀を右の膝に置 左の膝に置 先
太刀を添へ奉書を右の手に持右の手にて
鞘袋を折りて左の手にのせ奉書をのせ

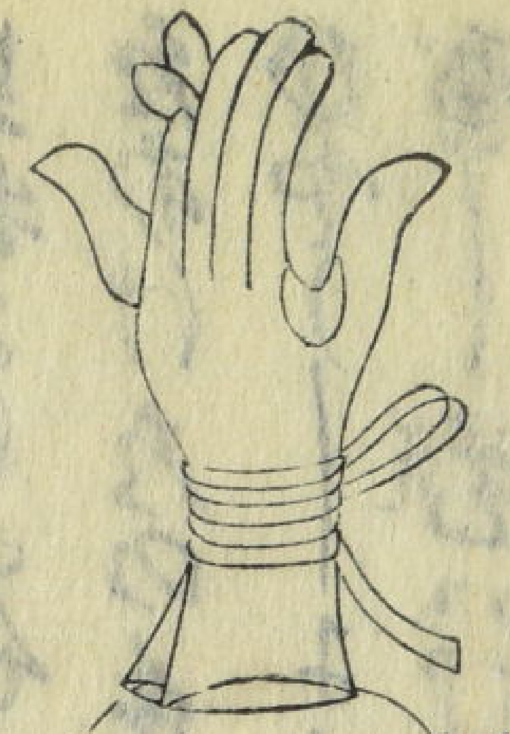
右の手にて折形の如くして右の指先にてよく押へ
折紙の内の折目を見て左の袖より出し太刀を
八文字に見合せて納めて太刀を取て持参し置き
一太刀に板物の事　緞子板物に太刀を添へて太刀を右の
手に板物を左の手に持ち行き着座して太刀を右の
左の袖に置き太刀を先に御前へ板物を両手にて左の手より
のせ取て捧げ置き御前へ指出して八文字折紙なり板物
だけにて品付は上の如く折に挟むべし



和礼儀統要約集　　巻之二

起居進退之節

一太刀に弓懸持て行事　太刀を右に弓懸を持ちて行き右の
膝に太刀を置き弓懸を太刀の上にのせて置き一礼
して弓懸を両手にて左の方へ寄せ　太刀を右に
取先太刀を渡し弓懸の弓ひきを親指へ掛けて左
御前にて指出し弓懸の手に太刀を斜に置き弓懸をあげて
且右より左へ寄せかけ置べし　納むる時弓懸を両手にて
取あげ左の手へのせ右の手にて弓ひきを親指へ掛け袖を
ひねりて太刀を取りして両手へ合せ持つ
是なり　是はむかし本太刀に弓懸を添へて
御座し代も時として包むべき式のごとくなり



掛手革うすかうじ
押手革白皮半月満月
口伝あるべし

一太刀に刀の事　太刀を下刀を上にしてくりでに紐付
うちとかへし刀の鍔へ右のひとさしゆびを入つゝ
とりてに持下緒も一所にのべく鞘に添へ持て左の
手を刀の柄頭にそへ持行右の手に置候て上座へ渡
紐付の所を右にて持左を刀の柄頭にそへさし出
渡し申候　参る人太刀刀を別々にし振出し
右のごとく紐付右に持左を刀の柄頭にそへ持立

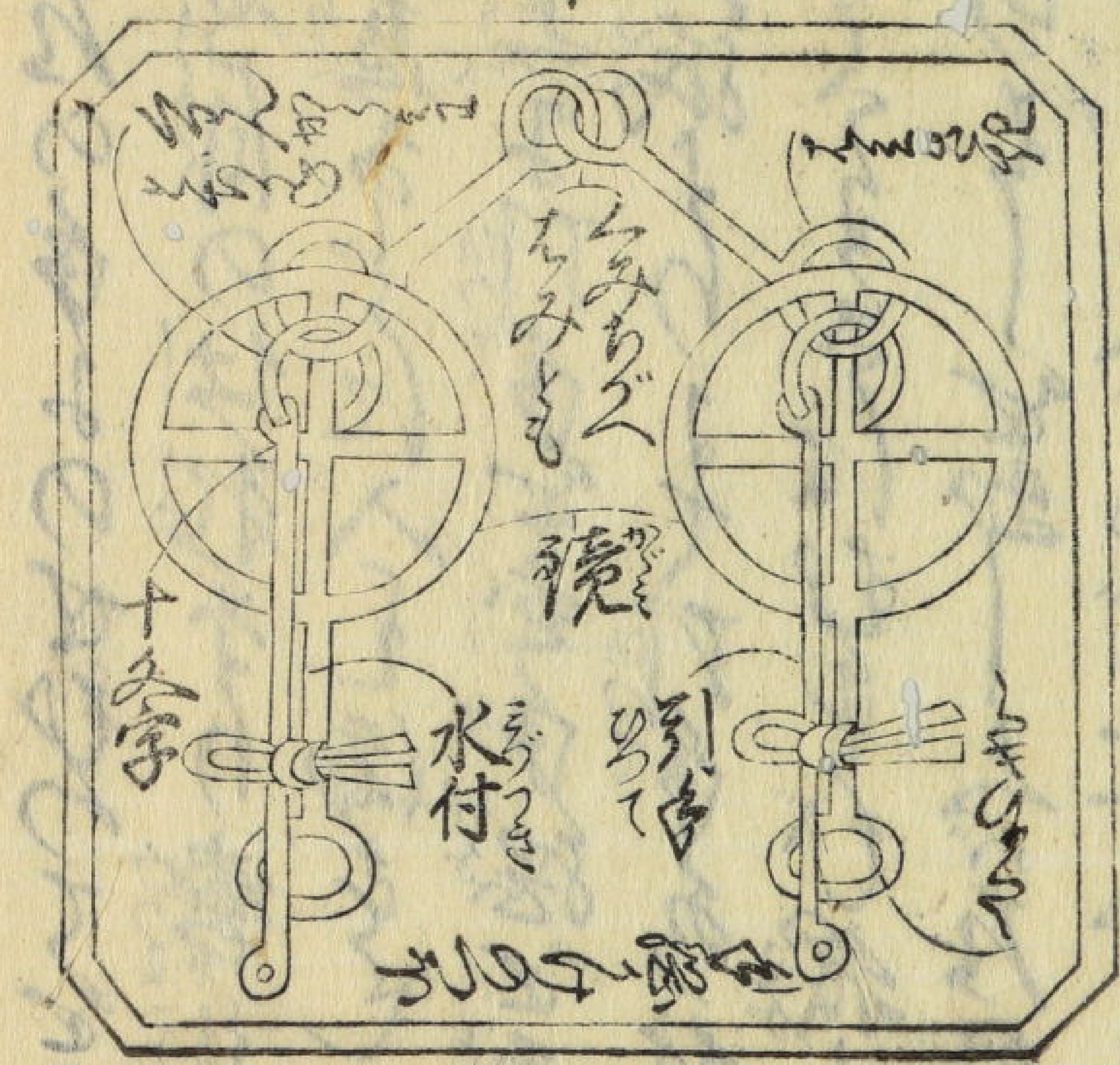
披露の時太刀を横に置刀の柄頭御前の右の方へ
如く振に紐上座にし鋼柄紐合所を右にもち右ん
持左も刀を振出しゆゆへ甲合へ左の手をそへ立
一太刀に進状の事　状を堅に懐中し太刀を右にもち
左を柄頭へそへ持行太刀を右の膝に置状を取出し
宛所を我左の方へなし左にて中かどを持右を状
の下へそへ渡し請取人も左にて中かどを取右をそ
状の下へそへ宛所を我左の方へ振出し名書を
見て裏を裏へ懐中し扨ありをすぐれころま
証刀太刀の時太刀を渡をし披露の右の方へ立て横に
右状を出し請人の左の方へもろくと寄
状を持頭を膝へ左の手へ件の方によりまうくよ

揃あげ家頼を頼へして其上にて座中の御ふくろ
扇をねかして右の指に盃臺の上に物を盃は上を中
かり包をとらく内の物を酒をあけて積み左
まで指あげ持ちあり刀又文箱に入りて参らせば
御合さる前に書状を取出し懐中してとし文箱へ
入て後え書状をそこなひ置き持参しまして文箱付
やかすハ相殺は鞘の物箱をハ御付し但時宜に
より鞘付て先物箱を参らすの右の袖の座りへさし
出し参らせ置て酒しは持参をみて左指へまずし
置く内太刀を常のごとく酒をべし

一 太刀に覆れ事 太刀を右に持ち覆の緒ちらへ左手
持太刀を右の指に置盃覆を左の指に置太刀を渡

て覆を左の手にのせひつてを右の下へ振わて渡べし
太刀は鳥目の仕形のよりの覆斗の事是は扇とざ又ハ
硯箱の蓋などに入し酒をとしてみを右左膝にて座
敷付の上に取手を盃に継を屋を下にさし
其上紙纏よりまで取手を付を一つにゆひてまつし
かけてくくさせにむすび我ときは楊に右のくへ
紙よりのえしを出しそ左の手にて取りは右のみ
ハ向ふへ成やは八寸なとに入てとぢめのくを我前
みなしを先に左につきを面し積み柄のを 右の手
ゆく八寸の左の指を取まて へてマヤ小口してお
出すべし 披露のより酒を付のごとくはたみを前に
あし持参するなりぬり覆の事のうち是ハ公儀へハ出さぬ

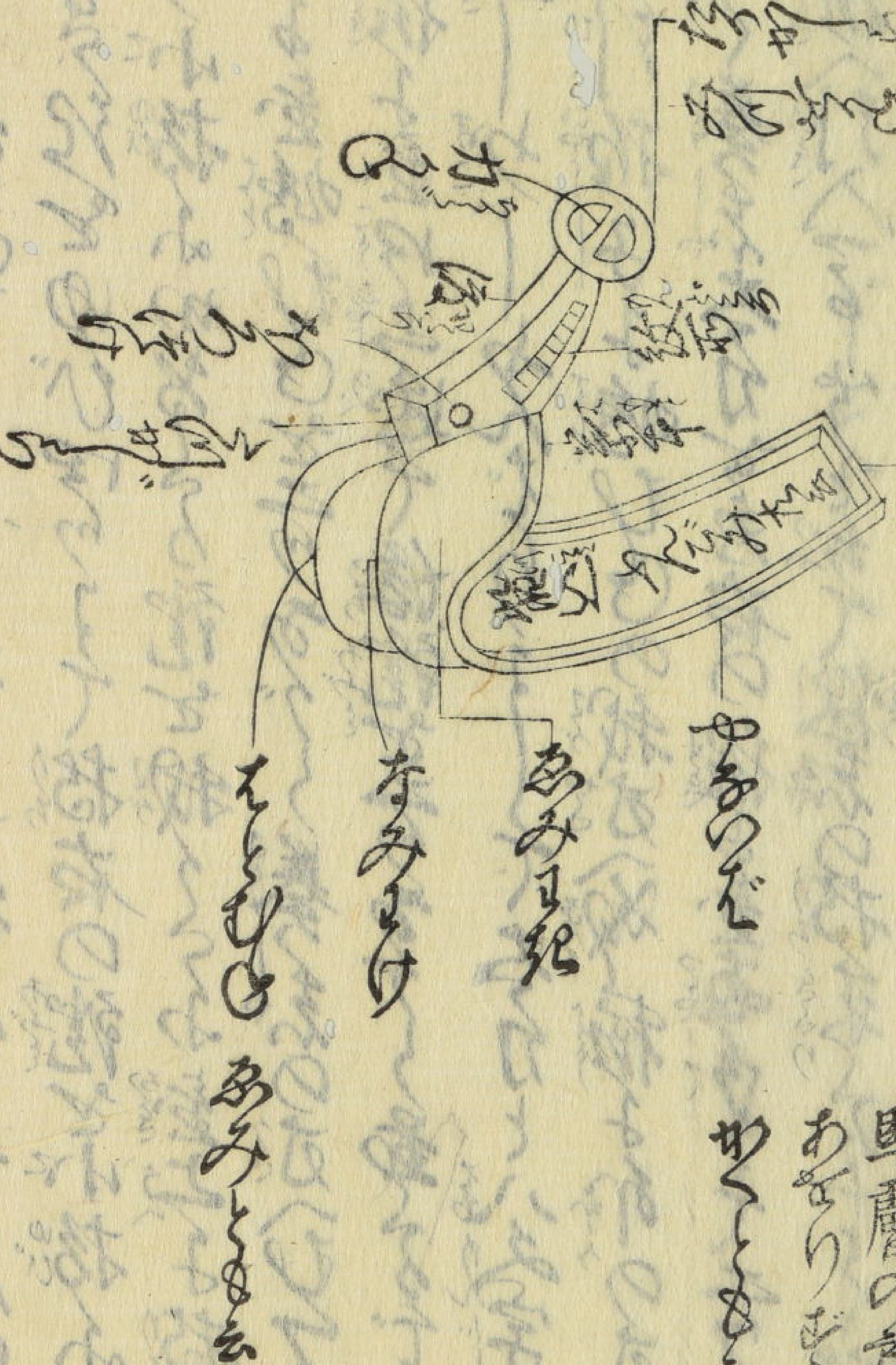
そのまゝさげをを紀ゆへぬりかくしおき揃へ
なり又其のびあまりにひまをあけ切かゝり嗜や
さずし紐ぬりぐりに紙かけて巻りかり一えを
ニえみとしるべし



総方 披露方

一 太刀ニ鐙付る事 右ニ太刀を結左にて左の鐶に
あてゝ紀をゆび四ツまて結右の鐶を小指にかけ
結り小指にかゝる鐶を親ゆびにて上に結る鐶
をそれにて蛇腹を二ツあぐる参者の方へむけて太刀ハ
右の掛け金四方に延て鐶を二ツあぐる竃てすくに
押出してがしめんぎりまして太刀と八文字に合
まを引揃子結むすびの裁方へ㐂揃子外の方へ出し
て遣て参者太刀を右の掛金ありて二ツの鐶を
左の掛へ引入一中ほと結て役者の結きるごとく結
披露も役者の開るごとし納太刀を右左鐶を結
右鐶を小指にかけて又鐶の左右を合を結むすびを
向ふへ渡し二ツの鐶の内へひとさしゆびと

たけなゆびと二ツ入て持すもあり　一かけと云

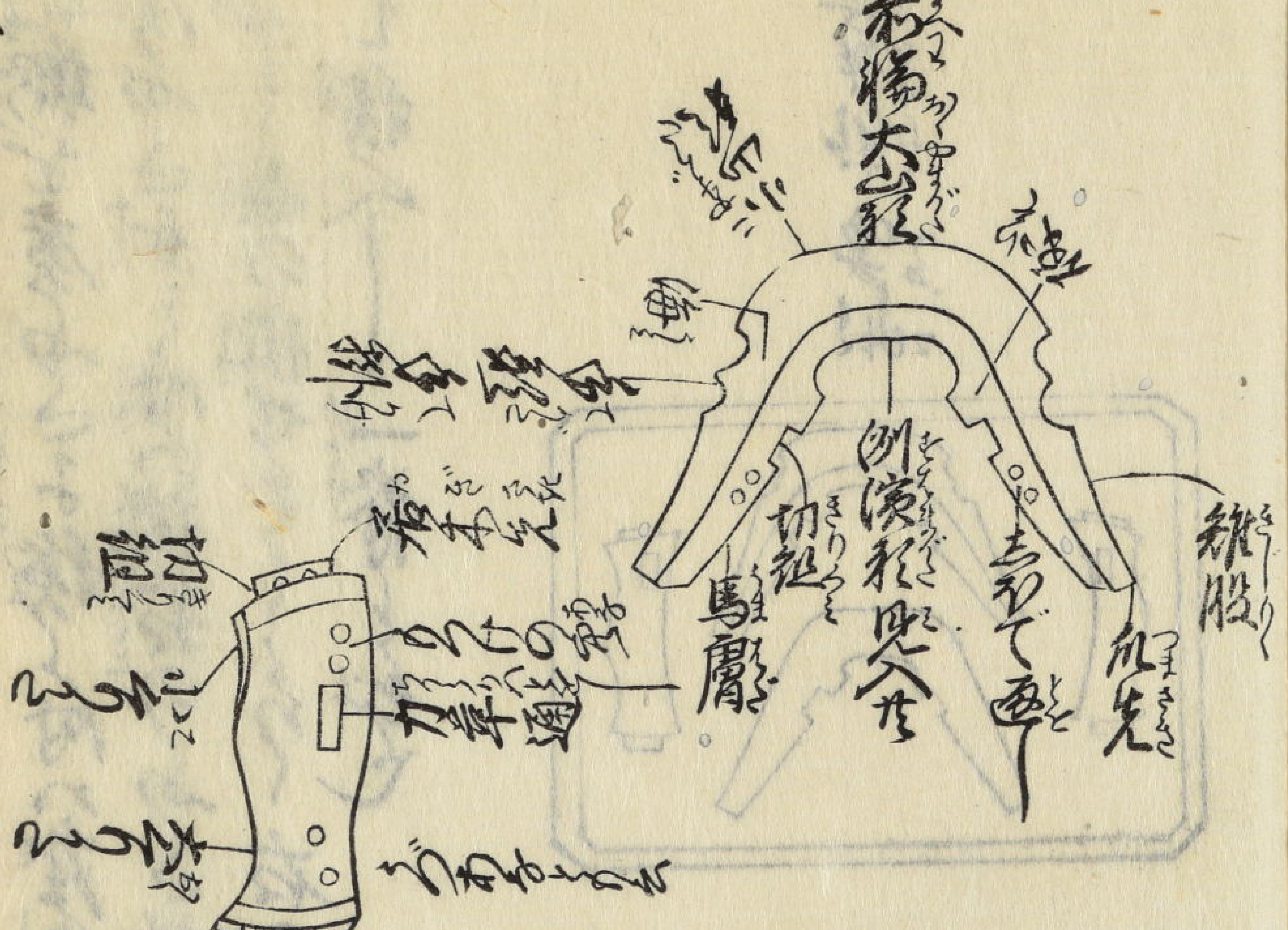


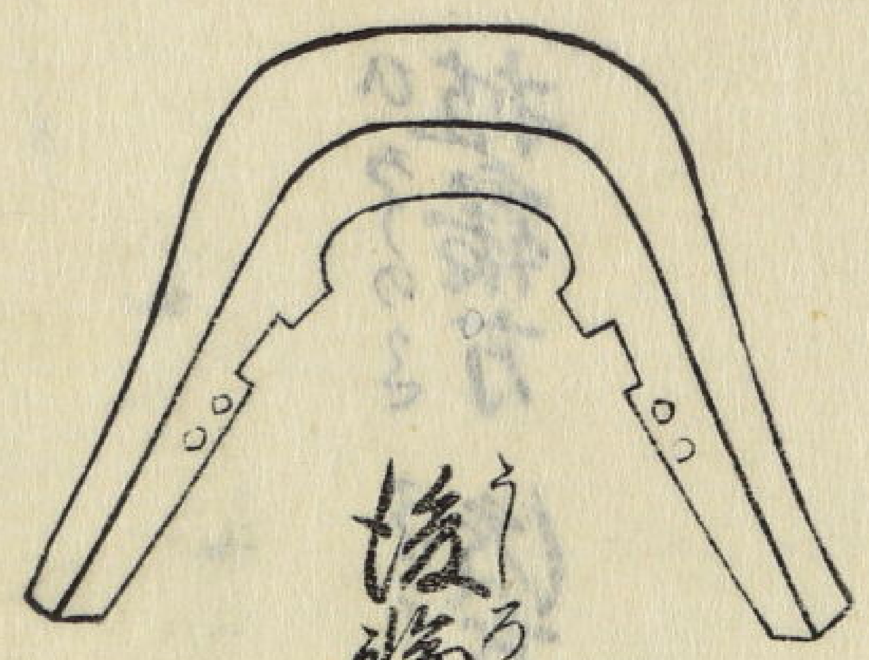
一太刀を鞍に付る事　後輪をさきへむけ太刀を鞍の上に柄頭をうしろの方へなし刃を我方へなし鍔を前輪に付左の手を入右の鞍に鞍を差付我方に太刀を右に上述て後うしろをさきへむけて置鞍を持事なり
前輪をさきへむけて太刀を八のんじに差合渡すべし其時太刀を左右の鞍に鞍をもあゆみて引入一礼して作法の持来りは柄を前へ拔るべし拔刀の前輪をさきへ振るべし太刀を八文字に置べし鞍附は太刀を初のごとく
一道具仕掛鞍置事　鞍のさきへ向て柄を右の手を左の方へ入て持右まで龍を常のごとく
のち入ゐなり

おかれ居して銚を左の提子置盃を右の提子
の上に置て後切付しとくろけの肩を持まゐり出し
座の前にきてくだりのりてこのつぎに
提子して持かへのふたを右にておさせて左かへ
次のひざに置て手を天地として丸く提子出ん
のうへふさの右の手へ取提子持まゐりしのりこの方
乃きりかへのふさより我左の提へ斜に引おろし
銚を出し結ひとの我方へ取提子提ゐて渡まる
請取り銚を右へ引入おりかへのふさを右に取座
手をちかへて天地として二つにおりて左へふさの取提子
板る纏に掛て立りかへの右のふさよりてせふさの
下へ取提子立りかへもかけ左の提へ引入一礼し

てまくろけの肩へ左の手を入銚を右にて常の
ごとく持直し披露のり銚を右の提子盃銚を座
にまて乗りこの入申る提子前備を収参へ可し
御しる時のごとく銚を出しかりまをまくべし
納るの銚を仕舞左手持銚を右に持初のごとくして
かちらうべきなり
一 銚斗比事 立てさ礼のうへ柳箸の前に左右へ
ひざより右はみぎに座手をまけて持り替座して
左の提子一本手盃一礼してふくをとり出
結ひとの祝くへ取提子持りお紙し海老
髪結ひ左の提へ一本手引入一礼して座手の持
まけちなり披露のの下に盃をとむ結乃我

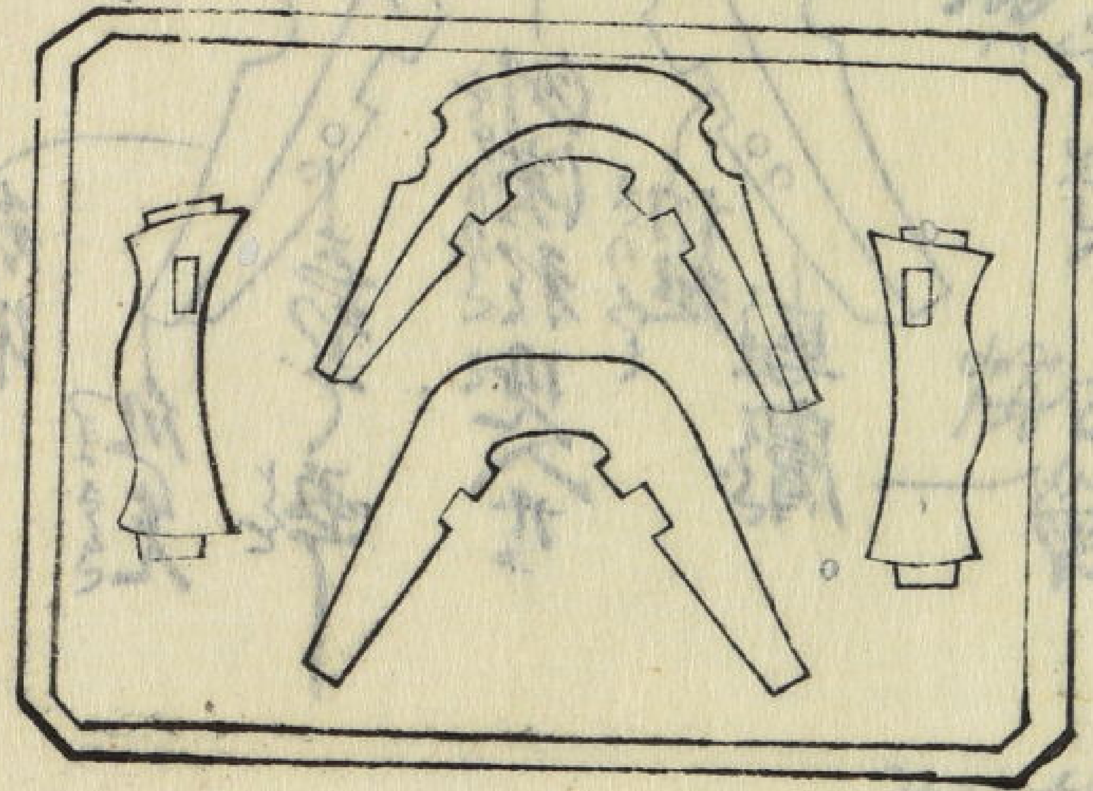
くらへ付く様子振ゐを直べし　納(かさむ)るにてくらを
あげ手まで又ぎり両方へ引つけおぶさの両の足
両手をのべ甲を向合(むきあはせ)て入内(がう)へまわしてくらを
我くらへ寄して初のごとく落所(おちどころ)あり
一　馬上の鐙(あぶみ)の事　すゝかけてありあぶみを御覧(ごらん)
たち候(うき)とくらのりして紙をしりしとうしり
を右の手にお持なんでみを左の手まて持嶋御覧へ廻(ひろ)
一　鞍鞯(くらかざり)の事　後輪(しろわ)を先へ向し居木(いさ)を両手にて持り
右の様子置(おき)一礼して立出し跡(ざん)にまわし居木の
人両手様にして前輪(まへで)を持　両右の鞍(さき)へ付入一礼し
て持直し　後輪(ひろ)の手前輪(まへわ)の先へ向て様子居木も人両
様子振る紙し置(おく)べし　納るに初のごとく持立や




後輪

一乱鞢を廣ぶさに穫る時ハ座敷に置き振に穫やか
廣ぶさ弓懸る時ハ披露のぶさ折ありぬ小穫くりも
割りし其の握せぞくろく右のくゝりに指本をのぞ
き結べし一脊と云也

弓弽箱之図



披露方　渡方

一太刀に弓の事うら筈を先へ向し握りを左の
手にて持り太刀を右の膝に置弓のうら筈を先へ
弓斗を我方へ廻して左の膝に置ひ上を延てまはり
太刀を渡し左の手を上右の手を下に握りを一所に
持手を上下へ引へうら筈の右のくゝりへ双手の振子寄の
手にて握りを持本筈を左の手にて持手に付け
渡すべし請取の人も其両手の脇を右の手ハ上左
の手ハ下に一所を五上下へまはりまけ我左の膝
の間を置左の手と右の手と上
下へ引し左の手にて左の膝へうら筈を先へ
弓斗を我へ取て引こみ一礼して弓を両手
まで左の膝頭より其のゝ手に置手を上下へ握りまけ

左の手にて握りを持右の手に太刀を持立て披露の
する太刀を右の脇子蓋弓をかへ手にて逆手に取なをし
本箸を御前へ向竹の押くへ寄せ板子錺子蓋太刀
を八文字に蓋合せし網の付弓より取初のごとく持立て

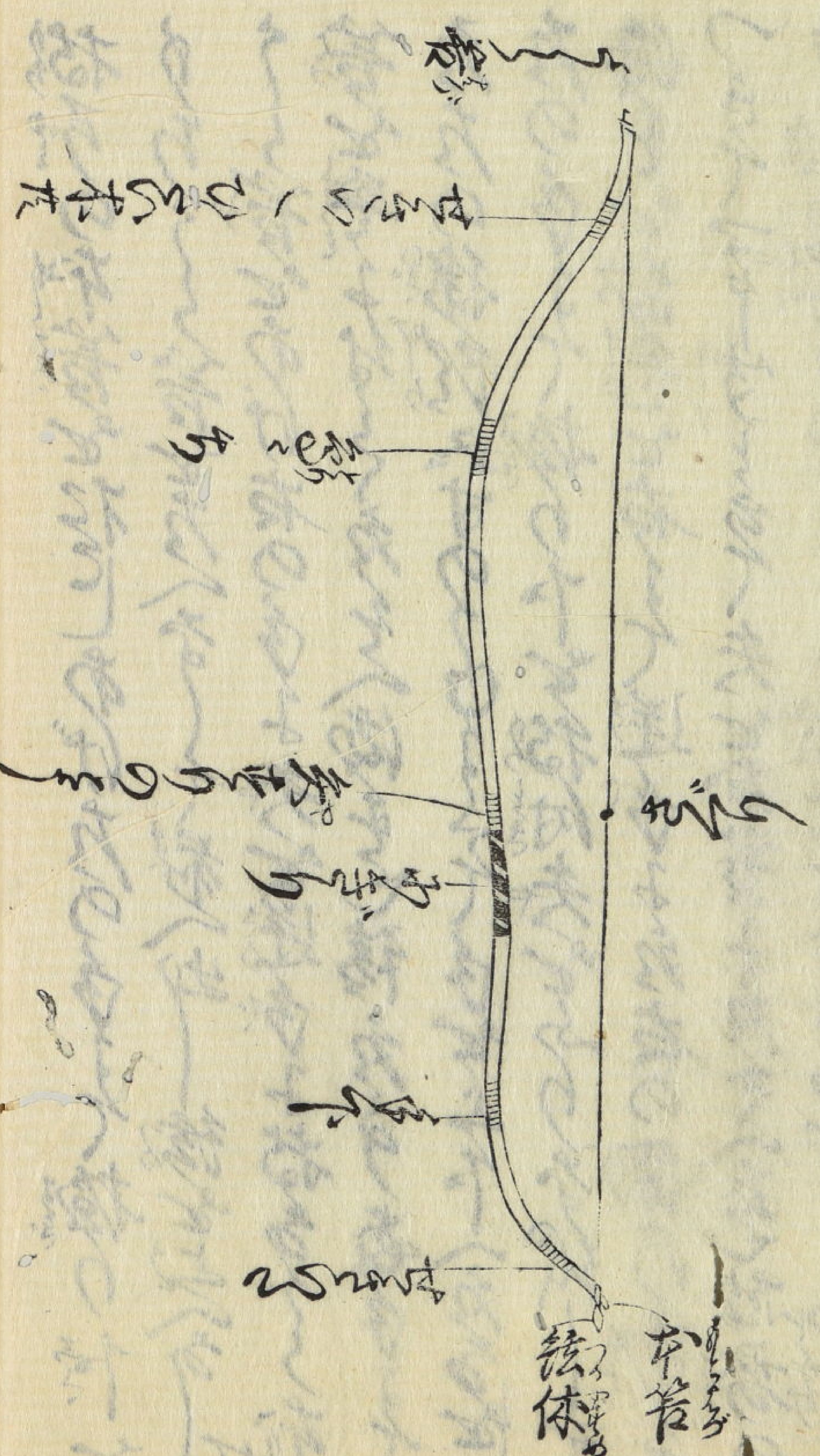
一 蚊の張弓は東ゟ箸を右へ寄し絃を上へ下して
右の手にて矢の鏃を持弓の握り下に取そへ
本箸を左の手にて持右の膝をすのつくりて
左の手をつき粽くや甲を紐くく着座して右の
脇子絃を卯へ寄して蓋左の手は甲を矢に付矢
の根本箸の方へ取く握りに取絃して弓より
内に蓋出てく縁矢の鏃の所を右の手にて
逆手に取本箸をもちてあげ左の手にて握り

を持弓をとろう弦子に手を上下へ取引絃して右の
手に矢を持握りを取そへ左の手にて本箸を持
蓋に付弓をとりこして御前へ持し結び取り似合の安
手の脇を右の手へ上左の手は下に一文字に取左の
膝を少すのつくりて手を上下へ取引絃して左へ
握りを持し又矢を御前への右にて鏃を持握る
左にて握りなをし矢先を我身へ向安手にて
御前をうけ据る右にて鏃の方を逆手に取
蓋に付まりに弓の本箸を取上下へ手をかへし
右の膝をすのつくりて左の手をつき一礼して左
まで本箸を持立て披露の時主人の左の方へ向
箸を取し我左の方へ本箸の幅を板子にて鋤ふ

跪左の膝をたてゝ筈より前へつきやり招く
りして本弭を跪拍子に膝をつく扨左の手を弓へ
矢をふりかへし弓の握りの上に置べし矢筈弦
を人の方へ向て縄の矢の中ほどを左の手に持握
を右の手に持左の手にて矢をそへて握へ入矢は
根先へ廻し付右の手にて弦巻を逆手に取末弭
より握りのきはまでしごき左の方を持そへ左の手
にて本弭を持直し弓一張矢一手とも
一草の張弓の事うら筈を左へむけ弦を上にし
て左の手にて握り下を持右の手にて弦巻を逆手に
持本筈を左へ向おもり脇座に置して右の膝に弦の
張弓と同じ頭矢を右の手にて逆手に弦巻を

持弓の本弭をたゞしあげ左の手にて握り下を
持ちうら筈を左へなして前へ出し弦を上へむけて
うら筈をあげ右の手にて矢を逆手に持ちうら弭を
筈を前へ付て右へ頭をそへ結ぶの勝手にて
弓左の膝頭五寸の○にて手を上下へ弓を
左の手にて握り下を持付矢をふりなき紙して
弦巻を右の手にて逆手に右の膝の本子
つきて一本中と云て矢を本筈に右へ立て拭ひの
弓の張弓のごとく置矢をふりかへし外竹の
そとに弓並に弦巻を本筈の方へ下して置絹縄
矢を逆手に右の手にて本筈よりおろしあげ握り
下を持本筈を左の手に持て左の膝五寸の○に

とて弓を上下へ返す紙しかして握り下を持右
そ本筈を矢もとに持そへ立なり

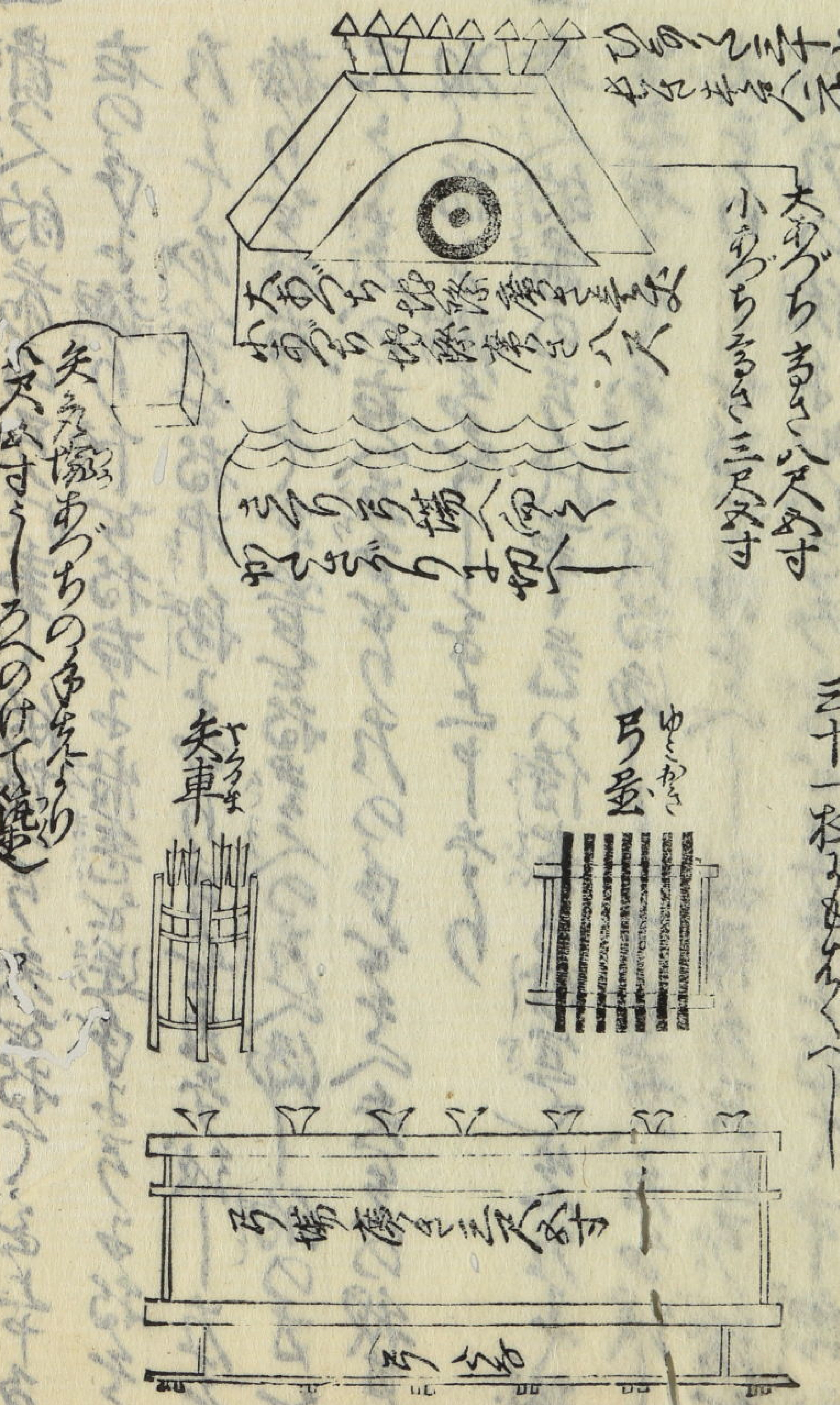


一貴人的前の弓の事　的場へ弓矢を持て縁上ゟ
右の手に握り下を持右に懐紙を逆手に弓を持そへ
たゝみて本筈を持中仰に弓を左ゟ紙し左手て
握りを持右手て本筈を持貴人の左へ向し的の方を
見て貴人の右へ立なり左の手をそへ矢もとの親指へ
抑て板手振をし手上中なり

一平人的前の弓の事是ハ侍衆の所望に先左手て握
を持右手て本筈紙持所に附弓を右へ返す紙し
矢もとゟを持て渡すべし　拵張たる弓紙を
内へ左の拇手かひこみ矢を逆手に持て中仰に
持くずひ乗手一礼して立て附弓絃を外へふり
すべき事べし

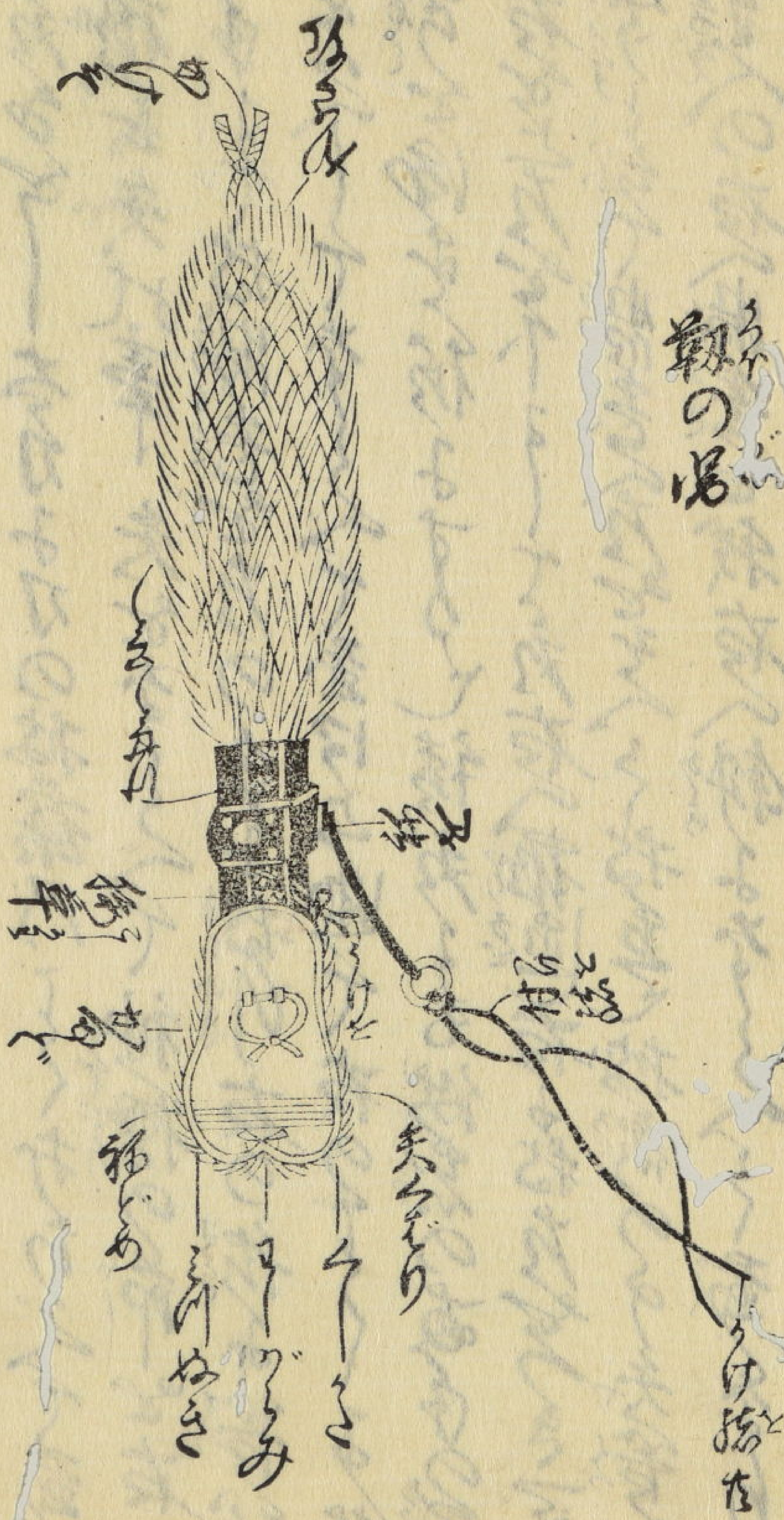
的場の図

的場と弓場の間三十三杖より
三十一杖までもあるべし



一弛弓は弦を右へなし右の手にて握り下
を持左の手にて本筈を持膝を立前のごとく
執弓の右にて握り下を持右の膝をすのへよりま
へて左の手をつきて其弓を初のごとく持立て
一弓を執は重力さ弦を先へして弓草の方を右
に持弓の弦を上へして握り下を左に持り弛を右
の脇にそへしずかに入引起して弓を左の脇
小弦は上に返して弦を奏者の右へしずかに執
乃て入銘に弓の下をよそに奏者の左本筈を
執右の手へ銘小弦の弓草の上に置て奏者へ
弓に筈を以て前の方へ打左し左の脇まで
執を置ずして弦を以て右の手へ置し右の

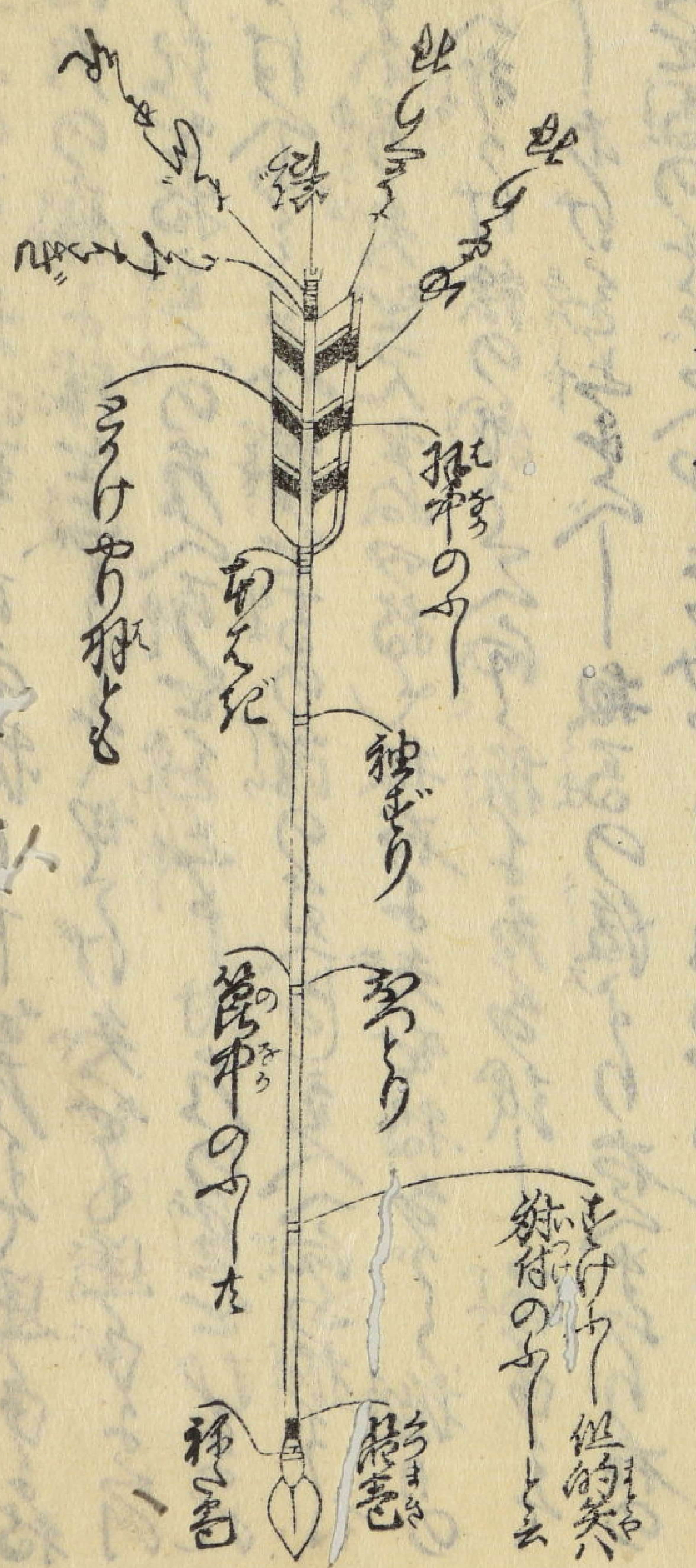
御手盃つかふとまて西の手に持たるべし 披露の
時も御盃の向ふしろ折手盃にかけ納るゝ時も
初のごとく持たるべし
一 靫卸の事 右の手にてこしがまを持左の手
まて下くしりを持右の膝をすのへなして縫先
を上へ斜にして左の手をつき叙て中ほどひ披
露して右の膝をみくし下ぐこの方へ引板まして
其口上を述ふく御筆を右の手に持て下ぐ左の
手をそへ向に肖出状のごとく持たる右の手にて御
筆の前を持右の膝をすのへなしてたの手をつき
一礼して左にて披露をおろし披露の外御前へ
右へ披露を残し左へ斜に立て納め持出て置はのごとし



一 胡簶卸の事 篦中の節乃程にて折るべく
太刀小刀のごとく右の手にて持り盃をして
右の膝を盃太刀小刀のごとく向きし持たると共

太刀小刀のごとく請取かたへおくべく持参之披露の
時右に持かへて左にて弓の間にかけ持て
時ハ矢の根の方を前へ向へ根を上へして持候
又下に置披露する時も矢の根の方を前へ向て根を
まへになし太刀小刀の披露乃ごとくすべし
一 根尖矢の事 矢をまつすぐにして
右手にて持籐巻を左の手に持右の筈の所を
右へ向て手の内にて...
弓を持かへて...
右を上へ左を下へまはして右へ持...
筈を左へ籐巻を右へ向て...
其人の右へ籐巻を我右へ向てなすべきなり

納のまゝ初のごとく持べし



一馬上の弓矢は事ハ弓の持やう下を左まで逆手に持
同左の肩より鐙を上ゟ少しかけ矢をも逆手に持
まへ弦を持立人の左へ弓を絃上ゲ時左の足をしまれ
そばへふところみ拳をするの頭の寸へ〔ヒ〕立へ向て柄まし
るに弓矢を人をねつ持も抛右に矢を持あがら懸りの
上へ折かけ総の紙を人へ向て柄に手を放て放し亜ゟまて
さしあげ弦を上げ下べし抛るの後より右へまはり右の
足をするのそばへかへこみやうり左の口ならし左のかけ
矢をぬりかゝし左まて筈巾を持右の手にて当
当を持て持上げ〔弦〕し左の手にて矢をも添てよ
前まくりとて馬頭の前を通てくねりなり

一馬上の鞭は表物柄を下へして逆手に持右〔人差〕上
やはハ右の手ニ持左の手にて鞦を持左の腰へ〔さ〕
当るの尻縄どうなう柄に立ならさうりとら柄ハ肱さ〔し〕
あけ結てあり左へ結やり時ハ左の手に鞭を持へ〔し〕

一平地の鞭ハ事総を上へあげ向ふへ〔ヒ〕鞭の中程を
右の手にて持り過ゆき時とら柄を左の手へ一寸
左の手を鞭の先へ添て添へし鞭の手法二尺八寸
一寸懐手当のかたくむらり伝授あるへくるなり 之

一馬上の弽の事 左をば手綱我懐へ入右ゆがけの紐
右の手にて弽の大ゆびの紐を持左の手を添
てとじあげ緒をしめ左へまわり左ゆがけの大ゆびの
付紐左の手にて持右の手をそへさしあげ
紐しゆがけさす時は右よりとじ十文字に結ぶ

一竪長刀の事 右の手にて柄を持左の手にて鐔を
押へ刃の我方へ成様にして持右の膝まで
鐓は上をとし左を上右を下にして柄を持右の膝
立すのりにて手を上下へ廻し右の手まで
上を左の手まで石突を持身を上にして弓の
ごとく柄を下し持身の左を上右を下にして五
寸の膝をすまして手を上下へ廻し右
まで持左を一礼して左の手を突りと石突を
立長刀を右へめぐる様子右の足を石突の方へふみ
込立て持入て柄鐔のあり右のごとく持出右のひざ
立すのりにて刃を内にして右にて持左をつき
付ずよりと結て左の手を撫て石突れを紐
逆手に右の膝をそへて手を左のへ石突を立への
右刃を我右の方へ刃様子柄を持ひ結り手を一
あとまて立し先へつきし鋼かの右の手に
右の鐔へ引右の手を鐔の下へ入あとまて右の膝
立すのりにて右の足を石突の方へふみ込長刀
を右の方へめぐる様子立て

一横長刀の事 太刀右の手に持て御手に付右の拍露

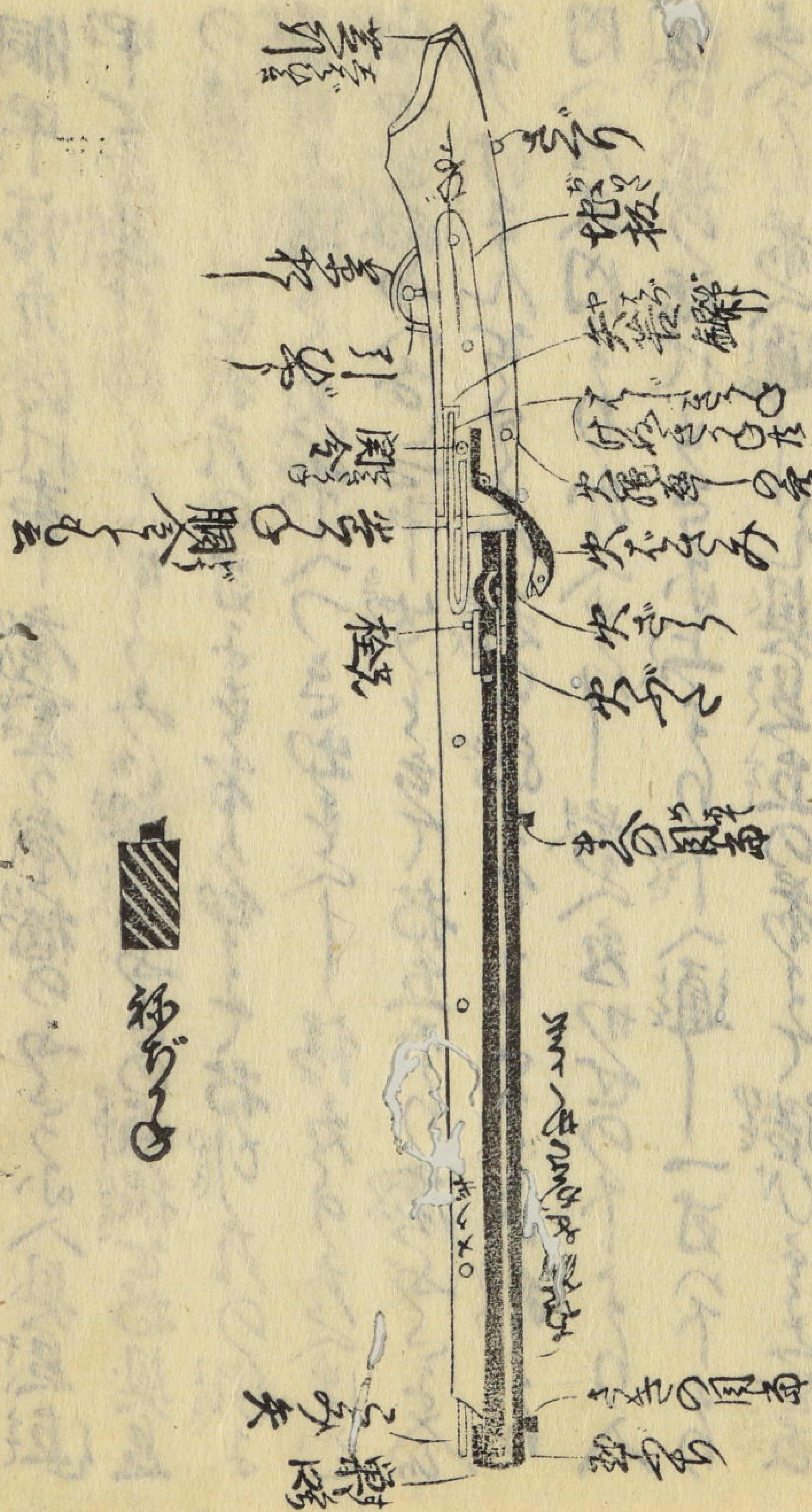
長刀のごとく立て頭を下へ下げ持つの長手にて頭
よせ右の膝へあげ其の鍔をへ当て柄子か引ひこみ
て中節と云く鐔本を左の手にて押へ立べし
柄頭の方右のごとし鍔の方まで引よせその
手を当かけて柄の下へさし入石突を握へまわ
其の鍔をへ当て柄子握まわし右の膝ゆかひこみ
左の手にて鐔本と押へ立寄り右の方よせ付き付ハ
引よせ石突を上へ向つさ返して其の我をへ当柄
ふ左の膝へかひこみ右の手をつき下り中と云く
右の手にて柄を持引の際をさらす柄子よ方を
左の入柄方な紙し其の我くへ当て柄よ右の膝
子かひてみ鐔本を押へうしろへ目付て立べし

一 座長刀の事　是ハ白洲までのする如のごとく口ひ
こみおむ中節ハはくてひた左の手を左の腿の甲
の上へつき上ぬく左の手ハ甲を柄へつけ総ゆ
乃右のくへ石突をして刃を上へ我右の耳へ取り
柄を握り紙し両手にて捻上出し頭を下べし
猶さて右の膝よかひこみ左の手を左の足の甲
まつき一礼して立ど鍔も長刀と取じるまち

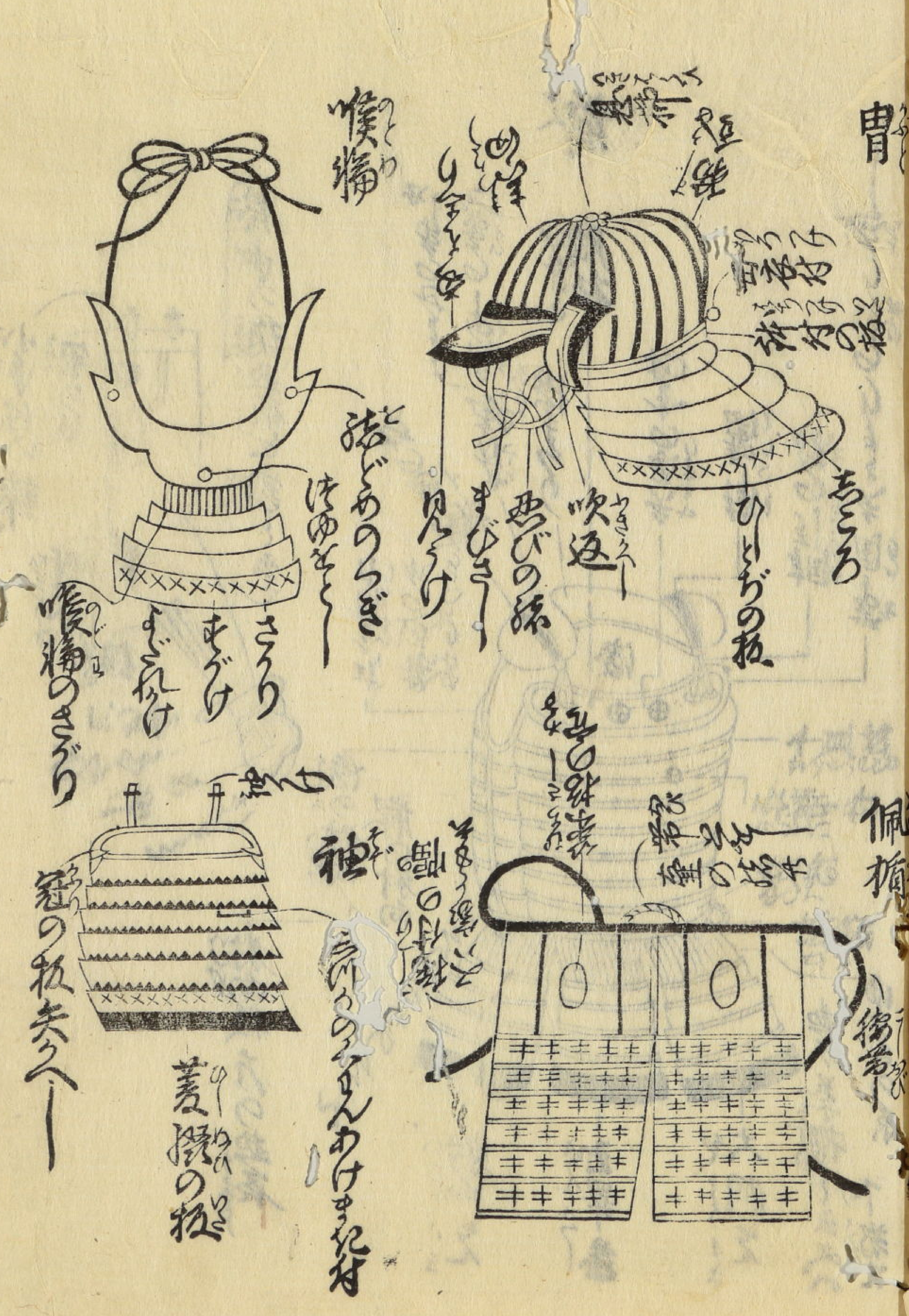
一 刀長刀の事　是ハ刀を脇へ頭を付のつし左の手を
帯の外どに並右の手にて柄を持刃を内へまして
抜立丸く外より内へあり込柄子は右の足をと
めて込又外へ丸くありし是も始ごとし
又右のごとく先へ手ありして石突の向を前へ柄子

刃を残し面まで親指へ刃の上へ如く柄に引うけ
立ずして御手前中御小姓へ請取るなり長刀は
かうくり悪鬼をおろしふもあり

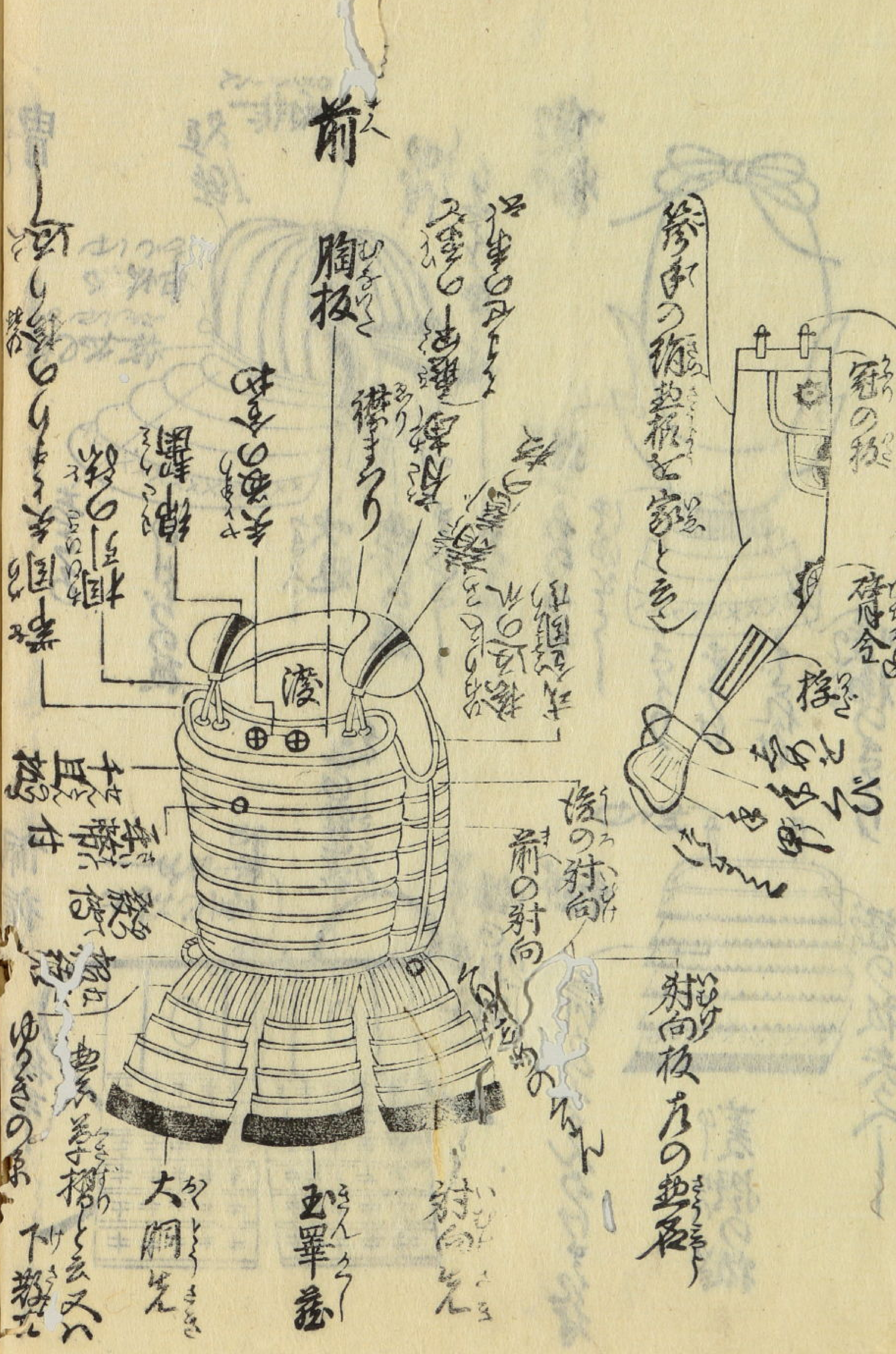
一 鉄炮請取渡し事 薬入すじの小なるを左の手にて持
てつさきの臺尻を先へむけ合薬入の方を柄に筒金を
上へ右の手に持火縄二三筋ほどゆびにかけそれにて持
そへ持なるを左の袖に立鉄炮を右の袖に火縄を筒口
の方へ下に置其後は上へのべて是を出し鉄炮をさし
八文字に互合御手前なるを両手にて左の袖へ引添鉄炮
の筒は上へ如く柄に引起しむくめを見んずる様にて右ん
持たして火縄を右の手に筒より用いて右の手を肉よりねさ
つまり鉄炮を火縄左手に持そへ合薬の入物を柄の下して左右
道具を取組へてか守と鉄物かぶあて乱て左さ指蓋の
御よくなるをもらと鋼の火縄をよせ鉄炮に持そへ道具を取並べ

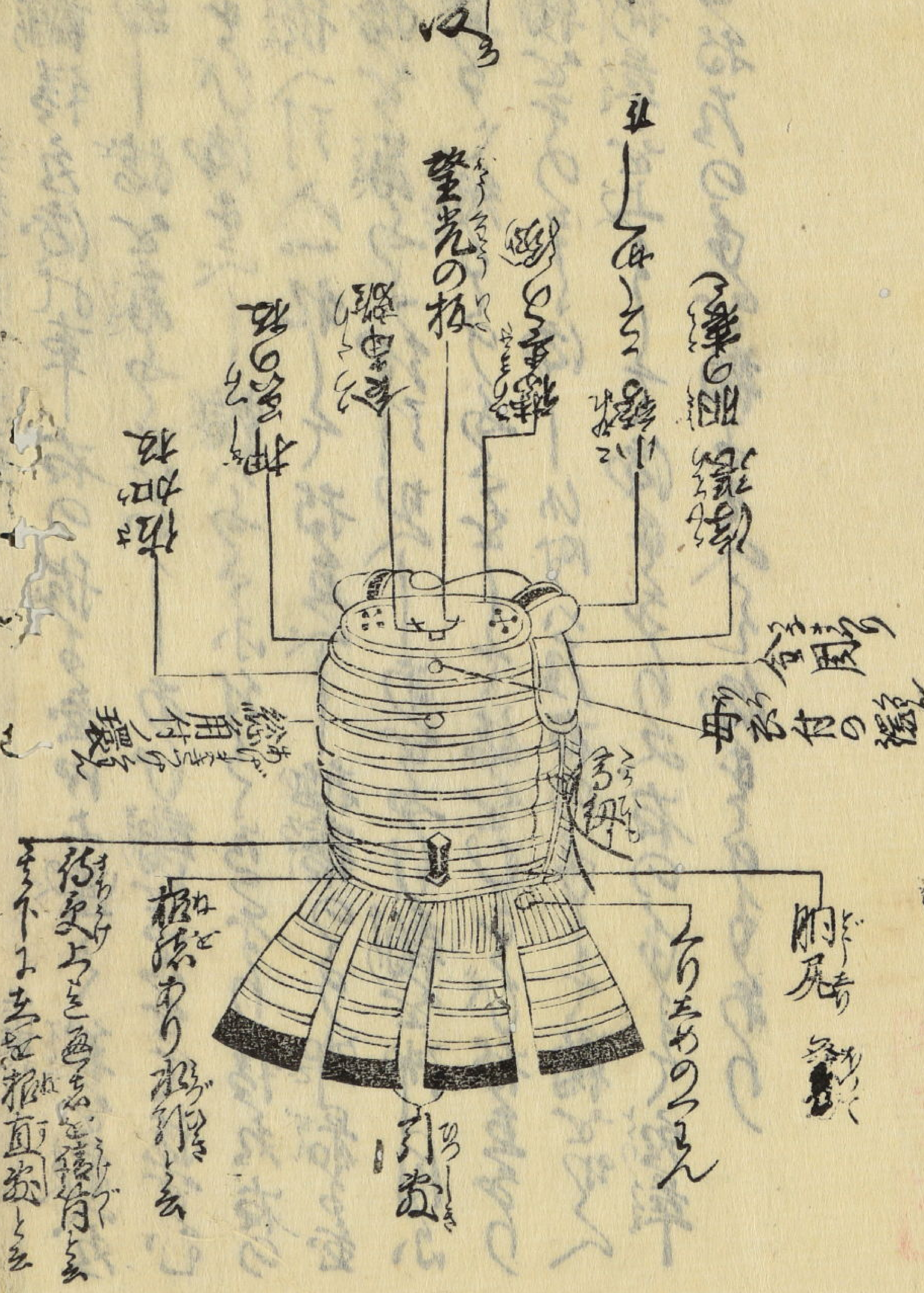


一胴甲袖を着る事　鎧櫃のふたに入具足をそへ
甲を臺に置てからみは櫃の蓋の上に置具足
の後のうしろを我左の手にもちて右の手のゆき
を上へあげて大将の方へ向て出べし　着る人の左へ
向ふ左へ廻して中にて両人して具足を
すけさせて忍の緒まで上にて結め合より
内へ入又内より外へまはし　前へ引合せの下より入
後の忍の緒はうしろより下へ通し　一寸ばかり下より
上へ前へ通し　して具足の前まで結びて上を
忍に結び合せ胴の内へ入しを引合の胴は
ごく打出し前中より下へ上にして射向の袖を
御肩にかけ下にして帯と具足の紐もかくる也



一かゝる事なし 此へハむまぬりのかゝり
一胴甲子太刀添ル事 太刀折紙を右の手に持廣
ぶたに取添ルし又具足の左の袖に常ゝ其袖に添
持てよし 鎧座して具足太刀折紙を重ね上へ渡して
太刀折紙を渡すべし 請ル右の袖に重ね付具足をば
出し渡ルを左のすへ直ぐにそ引よせ一礼して持退
揃露の事 太刀折紙を左への左乃そ手重ね具足ハ射向
紙の目かけ左への右乃ゝに重ぬべし
一甲斗請取渡ルの事 左の手を甲の内へ入れ向を
向へなして持る緒を取へ引かけ前より先へ三手より
上り左のゆびにかけ右の手をつき上に述て緒の緒を
右の手に持渡ル時右の手にて緒を取甲を持そへ





左の手を甲の内へ入甲並び指をそろへ緒の端を
初のごとくとり左のゆびにかけ右の手を添き
一礼してお立あり披露の手へ両手を附のごとく左
の手を右に居れ手をつき口上申し右のうけ込方
を取りひだりのいむけを御目子かけられ左へ立あり
役送義式ともにかりそめにもうしろをみせ
まじ紀あり甲ぞりのゝ紀は太刀へ添ざる
手あり具足奉行よりてよりつぎへく
あけ具足ぞうり持参やまじ紀ありぐそく
ひつともに御前へおそりあけしむて銭
いとしそのうへすぐそくかぶと並に御目に
かけやうにきまり

一　鞠請取候事　右の袖ニ而口上述る　箱を前へ出し　結を解てふたをとりあけ鞠を取出して結をむすび御返すべし　鞠ハ心付て扱請取　右の袖へ引入一礼して持立べし　披露のより御前ゟ出　結を解て枝切べし　あそばす鞠を御目に掛て結紙の上に置して結をむすび持立なり　鞠をその手に御渡し　但阿ハ左右の手にて鞠を取へ　衛草を上まして御手より又右の手にて鳥草を持左の手を鞠にそへ　御手まへの事あり

安祐蔵書